

## 「兵庫県ため池保全サポートセンター」による管理者支援 Support for Administrators by Hyogo Prefecture Irrigation Conservation Support Center

○山根規孝\*，野村純数\*\*，石川登章\*\*

○YAMANE Noritaka ，NOMURA Yoshikazu ，ISHIKAWA Takaaki

### 1. はじめに

全国一ため池が多い兵庫県において平成23年の台風災害では、14箇所のため池が決壊するなど甚大な被害を受けた。そこで、県では平成24年度からため池の健全度を専門技術者が5年に一度を目安に点検・健全度の評価をする「ひょうごのため池安全安心定期点検事業」を開始した結果、老朽化等により整備が必要なため池は1,000箇所以上に及ぶことが判明した。しかし、それらの全てのため池を改修するには、膨大な時間と予算を要することから、整備に着手するまでの対策として、ため池管理者による適正な管理（水位低下、簡易な補修等）の実施が必要不可欠である。加えて、農業者の減少や高齢化，行政職員数の減少を踏まえると，管理者への支援を強化する仕組みづくりが必要であった。

### 2. サポートセンター開設の経緯

県内のため池（約22,000箇所）の約4割は、淡路島に集中しており，定期点検事業を補完する仕組みやきめ細やかな相談対応，点検や管理技術の向上を図る必要があった。そこで，ため池管理者の適正な管理を支援する中間支援組織の設立を県が淡路島の3市，兵庫県土地改良事業団体連合会（以下「兵庫土連」）へ働きかけた結果，全国初となる「淡路島ため池保全サポートセンター」が平成28年5月に開設された。その2年後の平成30年6月には，このサポートセンターの取り組みが高く評価され，県（本土）全域を対象とした「兵庫ため池保全サポートセンター」を別に開設し，活動の充実を図ってきた。

### 3. 具体的な活動内容

ため池保全サポートセンターでは，次の5つの取組を実施している。

#### (1)巡回点検を通じた管理者への技術的指導・助言

決壊すると人命や農地などに被害を及ぼす特定農業用ため池約8,500箇所を対象とする定期点検を補完する巡回点検として「健全，要注視，要監視，要早期改修」の4つのランクのうち，危険度の高い「要監視，要早期改修」のため池を対象に2～3年の周期でため池管理者立ち合いの下，点検及び技術指導を行っている。

#### (2)ため池管理者からの相談対応

ため池の管理や保全に関する相談に対し，月・木曜の午前を相談日と定め電話又は来所，現地でのヒアリング対応を行っている。これまでの実績からは，特に漏水に関する相談が多く現地を確認のうえ，管理者に対し低水管理などを指導している。

#### (3)ため池管理者講習会への講師派遣

ため池管理者による日常的な点検の定着や管理技術の向上を促すため，管理者講習会に講師派遣を行い，日常管理・点検手法や緊急時の対応についての説明を行っている。

---

\*兵庫県土地改良事業団体連合会，Hyogo Prefectural Land Improvement Business Association

\*\*兵庫県農地整備課，Hyogo Prefectural Government Farmland Reutilization Division

キーワード：水資源開発・管理，灌漑施設，農地防災，農村計画

#### (4)ため池データベース等の情報整理・活用

県では定期点検や巡回点検の記録やため池改修・廃止工事などのデータを「水土里情報システム」に登録し、行政とサポートセンターがリアルタイムに情報共有できる仕組みとしている。また、計画的な点検等の実施を行うため、データベースの整備・更新を行い、次年度の点検計画等を策定している。

#### (5)ため池保全活動等の支援・普及啓発

ため池管理者講習会で利用するため池管理マニュアルの冊子や解説動画の作成・公開、保全管理に係る普及啓発資料の作成、さらには、かいぼりなどのため池保全活動の支援や管理者向けのフォーラムの開催支援なども行っている。

### 4. 運営・実施体制

サポートセンターの運営は、県内 38 市町と兵庫土連の 39 団体に構成される「兵庫県ため池保全協議会」が主体となり、兵庫土連へ委託し県と連携しながら、管理者への支援活動を行っている。その実施体制は、令和 4 年度から兵庫土連の事業部に「ため池支援課」を本部として設置し協議会・県

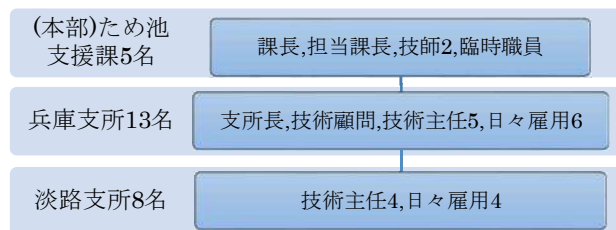


図-1 サポートセンターの実施体制  
Fig.1 Implementation system of support center

との調整や全体の総括、実際のサポートは、兵庫支所（兵庫 SC）と淡路支所（淡路島 SC）からなり、それぞれの支援活動を現地解決型で行っている。また、人員についても大幅な増員を行い、図-1 のとおり実施体制の強化を図った。配置人員は、兵庫土連の職員や OB、県・市町の OB などため池業務経験者を中心に人材を確保している。

### 5. 現状の課題

令和 4 年度でサポートセンターの取り組みは、7 年目を迎えるが次の課題がある。

#### (1)管理者への指導・助言

サポートセンターは、立場上、行政機関でないことから、維持管理上の指導はできても補修・改修の命令や指導はできない。また、改修の事業化は、各市町の対応となるため、関係機関と適宜情報共有を図り、役割分担のもと管理者への指導・助言を行う必要がある。

#### (2)巡回点検の効率化

サポートセンターが点検対象としているため池は、約 4,000 箇所におよぶため 1 年間に巡回点検できる数に限界があるため、点検の効率化を図る必要がある。また、草刈りや水位の状況により十分な点検ができない場合もあるため、適宜、管理者自らが日常的な点検や管理・対策を促すよう、その必要性を講習会等で説明する必要がある。

#### (3)組織力と技術力の強化

体制強化のため人員が増えたことから、指導者の育成や点検評価や相談対応にバラツキが生じないように、専門技術者向けの点検マニュアル策定や研修会の開催を進めている。

### 6. おわりに

ため池管理者は、今後益々、高齢化や農業者の減少により組織の脆弱化が進行することから、サポートセンターへの期待は高まるものと想定されるため、持続可能な取組となるよう、継続的な予算や人員の確保を図りながら、地域のニーズに応えられる活動となるよう支援サービスの向上をめざしていきたい。